

# K A M (北野商業連合)

三浦 明定 ▼K A M会長・有キングスコート代表取締役社長▼

この7年余り、この街は急速に変貌して参りました。当初「子供の遊び」とまで酷笑された商店進出は、今では当時の6倍、150店舗余りと増え、風見鶏ブーム、観光ブームも手伝って立派な商業集積地として発展いたしました。

北野という街は、私達に物理的にも精神的にも偉大な遺産を残してくれました。何にも増して、この美しい景観や、環境は「人が安心して住め、営める」都心のユートピアと申しあげても過言ではないであります。

この有形無形の他に類を見ない



7月に開催されたK A M協賛の北野国際まつり

特権とチャンスに感謝し、これを受けつぐ、この場所に関わっている全ての私達が、決して間違った方向にそれを使ふことなく、

「街に対して責任を持てる商店經營者」として当組織を通して、健全な商人として商業振興はもちろんのこと、地区の発展に寄与できる住民の一人として活動したいと思ひます。

そして先輩諸氏の如く、第二の文化遺産作りを目指して、決して急がず着実に北野の近来未来像を素晴らしいものにしようと考へる次第です。これを機会に「良き店作りは良き街作り」の原点をもう一度地区住民に誓約しなくてはいけないであります。

こんな考え方から、5月17日にK

A M (北野商業連合)が発足し、現在132店舗に加盟いただいております。各方面から激励や種々期待をして頂いておりますが、当面生まれたばかりの会の組織と運営を円滑にするため、この一年間は頑張りたいと存じます。

ビジョンだとか、どのような街にするか?などよく尋ねられます。が、正直な処、この街はもともと

住居地区で、それも一世紀の間育んでできた情緒空間、商店で埋めつくされた北野町は、私個人としては望んでおりません。むしろ、現在の出店者等が、より良い商店經營者を目指して自然発生的に質の高い次の出店者を促すことの方が北野らしいでしょう。

決して「売らんかな」「買わんかな」的な商店街組織とならないよう努力したい。商業振興も大切であるが、この街の環境を大きく変えるような立派な商店街を見るより、今あるこの街の諸条件

をダイジェストとしながら、よりベターで神戸らしさを失なわないような北野町を、と考えています。K A Mの役員や会員が中心になり、行政指導型でなく民間サイドから浸透していく街づくりが理想だと思います。

今とのところ毎月一回位役員会を設け、諸問題の対策を討議したり勉強会の企画をたてております。

この夏は7月と8月に第二回目の北野国際祭りを企画し、他都市では見られないインターネットショナルな雰囲気で大成功を収めました。会員達はそれぞれこの街の将来について大きな夢をいだいております。遙々とした歩みでも一歩ずつ前進していきたいものです。

# 詩心象

詩・安水  
画・石阪春生



HISHISAKA

# めざめの

とおいことだと  
もみこむように  
なかへなかへと  
かくしこんでも  
ちかづいてくる  
みずのこえ

きのかげがのび  
きのはながゆれ  
おもいだそようと  
おぼれるさかな  
わすれたようにお  
おちるとり

いまたちもどれ  
ひかりのなかへ  
ぼくのこどもよ  
こどものぼくよ  
めくるめくよな  
めざめのひ

●れんさいエツセイ●ペンのうちそと●6

# 美崎一子さんという歌人

三枝和子

え・元永 定正

作家

小野市に住む美崎一子さんという方から歌集をいただいた。『細径』(さいけい)。「平凡な商家の主婦が、細径をうろつきながら歩んできたさやかな生活を、心の赴くままに綴った記録でございます。」と「あとがき」にある。

一面識もない方である。十年くらい前、私の講演を聞いて下さったとか。添えられた手紙は、「あとがき」の文章と同じくお人柄が偲ばれる美しいものであった。美崎さんを指導なさった阪口保氏の序文には、

「はじめ地中海叢書に加わることを薦めたれど、諸作家の水準に及ぶ所にあらずと、辞退せり。よつて単独歌集を『細径』と名づけて上梓す。思うに、この細径、歌壇の大路に通するものあるべし。」と記されている。

一読、私も同感である。短歌、俳句、詩など、いわゆる短詩型文学に接する場合、自分が門外漢のせいもあるが、私は実に気ままな味わいかたをする。手あたり次第頁をひるがえすのである。気に入った言葉に出会うと読みすすめ、ピンと来ないと場所を変え、四ヵ所、五ヵ所と、別な頁を辿つていき、それでも自分に合わない言葉ばかりだと、そこで止めてしまうのである。特に新しい、未知の方のものを読むときはそうする。美崎さん

の場合も例外でなかつた。ぶあつい歌集の三分の一くらいのところを開いた。最初に飛びこんで来たのが次の歌である。

茶屋の傍に道しるべあり右峠、左新坂、左へ登りゆく

格調が高い。私は何でもない日常の些事を言葉の力で一次元高い場所に引きあげて定着するのが短歌の生命だと思っているから、こうした表現に出会うと、本当に嬉しくなってしまう。

摂津・丹波・播磨の国と国境、清水寺の大塔に立つ

陸のはてと海の境はおぼろおぼろ播磨灘らし島かけの見ゆ

これらは「播磨清水寺」と題されているが、紀行に特に秀歌がある。他にも、

「是より北木曾路」と藤村自筆の道しるべあり葉桜に風

西方にやや傾きし陽あたたかし京都太秦広隆寺に着きぬ

など、など。女のひとは思えない雄大な歌い  
つぶりである。当年六十五歳。短歌を始められた  
のは昭和三十七年十二月あるから、四十路も半  
ばになってからのことであろう。それにしても、  
大きな才能が埋もれていたことよ、とここで私は  
急に口惜しくなつて来た。十年ほど病床にあつた  
夫君が亡くなられてから、そのときの思いを歌に  
詠もうとしたのがきっかけ、だそうだが、おそらく  
、今までの毎日、自分の思いを自分で確認す  
るゆとりすらない忙しさだつたらうと察しがつく

こうした埋もれた才能の場合、男のひとであれ  
ば、もっと早くに開花する。結婚は、才能をつぶ  
す障礙には、ほとんどならない。言つてしまえば  
遅咲きの花のような美崎さんの歌を前に、私は女  
の才能の運命について考えこんでしまつた。必ず  
しもいい歌とは言えないが、例えば美崎さんの生  
活がうかがえる、

わが母は加古川の堤送りきて死ぬ程つらば帰  
り来よといふ

とあるのに接したりすると、一層その思いは強  
くなる。つりこまれて不覚の涙がこぼれる。

声あげていひたきことを云ひてみぬ物置小屋の  
暗き片隅

だが正直な話、私は美崎さんのこうした系列の  
歌は、あまり買わない。涙をこぼしながら読んだ  
上で、あえてそう言うのである。歌を詠むからに  
は、芸術の次元へ高めなければ、とむしろ声援を  
こめてそう言うのである。

蜂去りて子房ふくらむたまゆらの春ゆふぐれの  
いのちを惜しむ

直ぐ立ちの何といふ樹かからると凧鳴る坂雪  
もよひなり

遅い出発だったかも知れないが、寿命も伸びた  
ことだし、美崎さんが大成されることは、遅れて  
人間としての自由を獲得した私たち高齢の女たち  
の、何よりの励ましとなるにちがいないことを強  
調したい。

smotonaga '82

□ トランペット片手にブラジル一人歩き(10)



右近雅夫(在ブラジル・サンパウロ/絵も)

# フェスタで出会った ブラジル娘マリア

この間の日曜は「母の日」だったので、僕達親子三人は、数年前に亡くなつた家の母親の墓参りを朝のうちにすませて、近くに住んでいる僕の母を訪ねて行つた。玄関のベルを押すと、犬が吠えると同時に一足先にきていた妹の子供達が駆け出してきた。家内は途中で買つてきた赤いばらの花を母にプレゼントすると、「母ノ日、オメデトウゴザイマス」といつて、おばあちゃんのほっぺたにキスをした。

ちょうどお昼前で、父が「今日は寿司が食いいと  
うなつたから、皆で寿司でも食いに行かへんか?」  
といいだし、グロリア街にある「すずき」という  
日本レストランへ一家総出で行くことになつた。  
その日は日曜で母の日だというので、店内は家族連れのお客でかなり混んでいた。やつと席に着いて周囲を見まわすと、面白いことに日系の男性と  
ブラジル人女性とのカップルが多く、混血の子供やら一世のおじいちゃん、おばあちゃんを連れて日本食を食べにきていた。偶然か、その日はかえつて純粹の日本人だけのファミリアの方々がすくなく、父がそれを見て「なんや、今日はブラジル人

の嫁はんのおらん家族は、肩身が狭いみたいやがな!」と大声を張り上げて冗談をいった。にぎりやマグロの刺身で腹を満たすと、僕等は早速帰途につくことにした。家に帰る途中の車の中で、さつきのことを思い出して家内に話すと、彼女は結婚に漕ぎつけるまでの苦労を想い出したのである。目に涙を浮べて「私達辛抱して本当に良かつたわね!」とハンドルを持つ僕の手を握りしめていた。僕の妻のマリア・アントニアはポルトガル系のブラジル人である。

想えば、彼女と知り合つたのは、今から十七年も前のことである。当時、サンパウロの五月十三日通りからアルツール・ラド街に入った一角に緑の大木が蔽い繁つた古めかしい屋敷があつた。神戸の異人館を思わせるようなその建物には、かつてはカフェ園の主でも住んでいたのであろうが時代も変り、カトリック大学の女子大生の寮となっていた。ある日の夕方、そのヘブリカでフェスタがあるから好きな連中が集つてジャズをやろうといってアミゴのエドワルドとセルジオが誘いにきた。

鉄格子の門をくぐり、玄関から大きなシャンデリアのぶらさがったホールを通って客間に案内されると、ここでも顔の広いエドワルドが若い女子大生達を次々と僕等に紹介してくれた。僕は演奏を始める前に手洗いに行っておこうと思つて外へ出ていった。コロニア風の建築で部屋の外部をテラスのついた廊下が取り巻いているのである。台所の側の廊下の片隅で立ち話をしている二人の女の子がいた。一人は青い目をした金髪娘で、もう一人の方は小柄で黒い髪を後で束ねていた。「こんなところに引っ込んでいいで一緒にサラヘ行こうよ……」と僕は二人を誘つた。サラヘ戻ると、クラリネットのアルベルチットやトロンボーンのカンジドがきており、ピアノのB♭の鍵を叩きながらチューニングをしていた。セルジオがピアノで前奏を弾き出したので、僕は“*I can't give you anything but love*”（捧ぐるは愛のみ）のテーマを吹き出した。一曲演奏し終えると、僕はついさっき出会つたばかりの小柄なブラジル娘のことが脳裡に浮んできた。目立たないが



Maria Antonia  
wed 1965  
M. UKON

筆者が描いた愛妻、マリア・アントニア。筆者夫妻は今年9月に結婚10周年を迎えた。

人が良さそうで気立てのやさしそうな彼女に僕は昔風の日本女性の面影を見た。「そうだ！」彼女こそ僕が余生を共にしようと今まで探し求めていた相手だ」と思いつくや、僕はトランペットをピアノの上にほうり出し、彼女の側へとんで行った。翌朝、僕は両親にゆうべのフェスタの話をし「いよいよ僕も結婚の相手を見つけてきたよ！」と得意気に打ち明けた。ところが、喜こんでくれるだろうと思っていた僕の期待は見事にはずれ、「外人の女なんかを嫁はんにもらうなんてもつてのほかや！」と両親や妹達の猛烈な反対にあい、僕はがっかりしてしまった。

一昔前までは、ブラジルでは日本移民は水と油のように同化しないと批評された時代があつた。最近、サンパウロのイビラブエラ・ショッピングセンター等を歩くと、日系人の男性とブラジル人の女性との夫婦が実に多いのは驚かされる。これはひとつには、總体にブラジルの女性が欧米や他のラテン・アメリカ諸国の女性と異なり、小さい頃から妻は夫に従うものと習慣づけられて育つているために、日本人の男性とうまく

いくのだと思う。

僕とマリア・アントニアはあのヘブルリカのフェスタで知り合つて以来、七年間待ち続け、僕の両親達もこんなに二人が待つたのなら良かろうということになり、ささやかな結婚式を挙げた。この九月で十周年を迎えることになるが、八才になつたばかりの混血の一人息子は母親の教えで、日本人の血を継ぐことを誇り

# BAUMKUCHEN

バウムクーヘン

木の年輪を表わしたお菓子で、  
北欧では古くからお祝いの菓子として  
広く愛用されております。



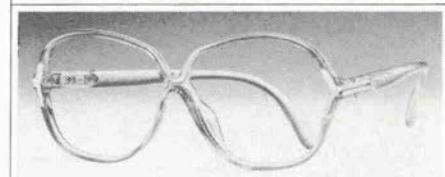
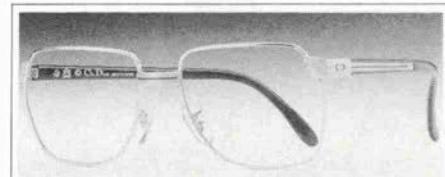
¥700……¥3,000

北欧の銘菓  
**ユーハイム・コンフェクト**

■本社・工場・熊内店 神戸市中央区熊内町1-8 TEL221-1164

# めがねとともに55年

EYE WEAR のご相談なら  
おまかせください



## 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表  
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

耳のよきパートナー

補聴器オーディオルーム

専門コンサルタント担当

- 防音室で聴力測定・補聴器微調整
- 耳穴にフィットする耳栓型取り

※補聴器は元町店で取り扱っています。

# 「地方の時代」の 甘言を駁す

狩野博幸

(京都国立博物館主任研究官)

2月末に開催された南蛮美術館の創設者、池長孟さんの業績をしのんだコレクションより



一時期、「現代っ子」なる言葉が流行した事がある。戦後に生を享け、日本の復興そして高度成長と共に大きくなつた世代、当節所謂「団塊の世代」の子供達を、教育評論家Aがそう名づけて本を出しベストセラーになつた。当時の「現代っ子」でもあつた私は、その本も読み、回りの者が自らを「現代っ子だから」と何事につけて疑問にも思つていいのは怪しからんと、作文に書いたが良い点を貰えなかつた。

今流行的「地方の時代」という耳に快い響きのキヤツチフレーズ

それでも中期の十八世紀の中頃には文化の中心は既に江戸に移つてゐるのだ。書籍の出版点数を見ても一七五〇年頃には江戸は上方の三倍も出している。二百年以上も前、アメリカ建国以前の話である。文化の集中の度合いを出版の件数で計るのは間違いたとする意見があれば言つて貰いたいが、私などからすれば、大阪を含む関西の文化後進がつい最近始まつた如くに考へ、国立劇場を建てれば万事解決と思うなど、本気でなければ幸いだ。第二の東京を目指す虚妄から醒めなければならない。「地方の時代」などという甘言にのつてはならない。

にも、同じ事を考えている。今まで良い点は望めないが、この欄を借りて言わせて貰う。

「地方の時代」という言葉には、今まで東京に文化が集中したのはやり過ぎでした、といったニシアヌスがあるが、そうなつたのは誰でもない国民自身が選択した結果である。京都人・京都文化人は今でも京都が文化の中心だと能天氣なことを言つてゐるが、江戸時代それが南蛮関係資料の豊庫を、建物ごと寄贈された神戸市・神戸市民にとって、ちやちな洋館保存以上の意義として本当に認識されているのだろうか。

「地方の時代」というキヤツチフレーズは、選挙の時の「あなたが主権者」というそれと同じだ。言葉のうわべに酔い痴れてはならない。欧米の、特に米国の美術館は作品の寄贈と作品購入のための寄附金で成り立っている。講演会への優先や入場券の割引をみてにすぐる日本の美術館の「友の会」とやらの行き方は、現今の福祉の在り方と見事に規を一にしてゐるといえよう。「地方の時代」とは、我々に覺悟を要求しているのである。

その指針が神戸にはあつた筈である。江戸時代の日本は如何に西洋の文化と接触したか、その確乎とした視点を絵画収集の基礎に置いた池長孟の業績は、その名も消滅する南蛮美術館の名のもとに記憶されねばならない。東京にもこの種の美術館が皆無であった事、美術史関係者のみならず日本・西洋の研究者にとって、神戸といえば「南蛮美術館」と強いイメージを与えていたことを、当の神戸市民のどれ位が誇りに思つていたか。開港地という地域性を充分に意識しながら、以上の方針に沿つて神戸に關係あるなしを問わずに集められた南蛮関係資料の豊庫を、建物ごと寄贈された神戸市・神戸市民にとって、ちやちな洋館保存のどれ位が誇りに思つていたか。

# ファッショントークン都市づくり 10年の成果と課題

川上 細川

勉 (オールスタイル社長)

数夫 (ジャヴァ社長)

河本 春男

▲ユーハイム社長

木口 田崎

衛 (ワールド会長)

俊作 (田崎真珠社長)

芹澤 豊男

▲セリザワ社長

あり (豊男)

—神戸市がファッショントークン都市づくりをめざして、今年で十年目になります。ポートアイランドでは、現在、ファッショントークン都市の核とも言うべきファッショントークンの建設が進められています。今回はこの十年の歩みを振り返っていただき、さらにファッショントークンをも含めたこれからのお展望についてお話しをお願いいたします。

ファッショントークンは文化のバロメーター

川上 神戸のアパレルの協同組合であるKFA(コウベ・ファッショントークン・アソシエーション)が結成されて、ちょうど10年になります。これは神戸のファッショントークン都市づくりと同じスタートですね。

十年前にわれわれの業界で、世界に雄飛する神戸をめざさそうではないか、という声が起り、世界に誇るファッショントークン都市神戸を旗印にして、それまでの業界の懇親会を発展的に解消したKFAが結成されたわけです。そのときにどういうことを考えたかと言いますと、ファッショントークン産業が成り立つのは、まず平和なときです。さらに自由がないとファッショントークンの花は開かない。そして香り高い文化を蓄積しようとする心、経済的な豊かさ

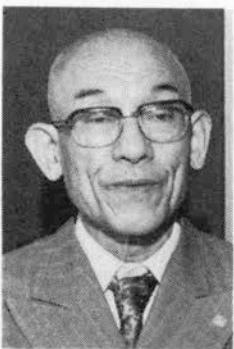
も必要なわけです。だから、われわれがめざすファッショントークンは平和の天使であり、自由のシンボル、文化のバロメーターだという考えを基本にもつて、人々により潤いがあり、よりやさしく、より豊かで、センスに富み、より美しく個性豊かな生活への欲求を提案して行こうではないかということです。香り高い生活文化をつくるために装いの分野で提案して行こうということをやろうとしたわけです。ファッショントークンとは、女性の虚栄心を満たすだけではなくまた、流行ということでとらえるのではなく、香り高い文化生活をめざすのだから、地域社会の發展をファッショントークン都市という視点からとらえようということです。

それで運動の具体的な目標を八項目かげました。

一つは、グローバルファッショントークンフェアの神戸開催。二つ目は、世界デザインコンテストを神戸で開催する。三つ目がファッショントークン大学の設立。四つ目は、神戸のファッショントークンを紹介する月刊のファッショントークン誌の発行。五つ目として、神戸から出す商品にKFAラベルをつけてセンスとかファッショントークン性、あるいは品質を保証する。六つ目に、ファッショントークン都市神戸の核心として、ポート



田崎 俊作さん



河本 春男さん

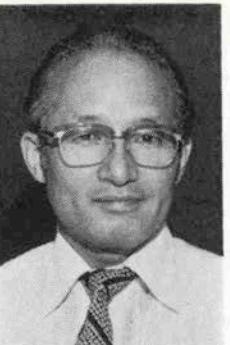


芹澤 豊男さん

アイランドのファッショントウンづくりを研究する。七つ目が、ファッション資料館・博物館の建設。そして、八つ目として国内外のファッショントン団体との提携・交流を深めて行く。以上のような目標を具体的にかかげたわけです。日本の各都市が、それぞれに個性の香り高い、たとえば工芸文化都市だと、情報文化都市であるとかいう形になって行くよう、まず神戸がその尖兵となる、という意気込みがあるわけです。

その間、われわれの年間の売り上げを見ても、当初は一千億ぐらいしかなかった。それが十年たった今、百億企業の数もだんだんと増え、一社で一千億という企業もあります。十年前とは、われわれの業界は違った位置に立っていると言えると思います。

昭和四十九年にKFAが、ポートアイランドでの世界生活文化博覧会＝グローバルファッショントンフェアを提唱し、それに対して五十一年に、経済同友会が、国際生活文化博覧会をポートアイラントでいうことを提唱しました。それに先立つ四十八年には、KFAとしてポートアイランドのファッショントン街区づくりのプランを具体的に神戸市へ提唱しております。KFAは常にファッショ



川上 勉さん



木口 衛さん



細川 敏夫さん

ン都市づくりを先取りして来ています。  
田崎 真珠につきましては、大変恵まれていたわけです。神戸では全国の真珠の八割が集散されています。立地条件はとても恵まれていますね。国内の業者も海外のバイヤーもみな神戸に集つて来てています。

ですからファッショントン云々ということは、あまり意識していなかつた。しかし、気がついてみると、世の中の流れが変っていたわけです。昨年はポートピア'81もあつたりで、業界でも若い人の力の盛り上がりが顕著になつて来ました。デザインコンテストをやつたり、ファッショントンショーへ参加したり、神戸を中心とした真珠業界のイベントが、ここ二、三年急に増えてきました。

先ほどグローバルなファッショントンショーということをおっしゃいましたが、ファッショントンの全業種が協力をし、一週間ほど国際的なファッショントンショーをやってみたいですね。カンヌの映画祭のように、海外からも人が来るようなイベントが出来るのじやないですか。

河本 洋裏子は、神戸市という非常に恵まれた土壌に育つて來たと思います。したがつて洋裏子関係では、神戸市のどの企業も東京をはじめ全国に出て行つて活躍をし

ています。

それは、神戸市民のセンスがいいということ、さらに外人が多いこともありますね。外人が始めたところも多く、最初から本物の菓子づくりをやって来たということですね。

現状は、世の中全体にファッショントリックという感覚が強いですね。そうすると、今では、外装とか、見てくに力が入り過ぎて、中味がちょっとお粗末という感じがあつたんですね。ところが、おととしぐらいから消費者の価値観が変って来たと思うんです。食べものの場合は、これからは、食べものそのもののセンスの良さが大事になつて来ますね。ファッショントリックという言葉を使うなら、消費者の感覚に訴えて行くというか、あるいは嗜好を先取りするというか、ニーズに即応する中味の良さをつくる時代が来ていると思います。

食べものの味では、甘いもの、あるいは塩味のものはこれは本能的なものですから、赤ん坊でも拒否しないですね。ところが、すっぱいものとか、にがいものは勉強をしないと好きになれない。情緒的味覚と言つていますが、これらは、こういう勉強をしてだんだんと慣れて行く味が好まれて行くと思います。そういう面でだんだんと原料へ力が注がれると思っています。

とにかく今までのところは、良い環境に支えられて育てられたのだから、これからは自分たちの力で本当に育てて行かないといけないところに来ていると思います。芹澤 この十年の間で専門店のグレードが非常に高くなつたと同時に、町並みが非常に良くなつたという感じがするわけです。

昭和四十五年にサンプラザがオープンしまして、引きづきセンター街が高層ビル化し、他都市から有名店がどんどんと神戸へ出店された。また、地元の企業も、神戸市がファッショントリック都市構想を打ち出す前後から、大都市に出ていたしまして、神戸の専門店の良さを全国に広めを行つた。先ほど環境がよかつたというお話をあります。

ましたが、私どもも環境に恵まれて、ある意味ではいい商売をさせていただいたと感じています。

今から七年ほど前に、専門店の組合であるKFK（神戸婦人子供服小売商組合）が結成され、最近では、東京出店の小売業の研究会と言いますか、例会をもち始めまして、神戸のイメージをよりよくして行こうという動きがあります。今後は自分たちの力で、ますますいいものづくりをし、神戸のイメージを上げて行くことが、今後の私ども専門店の責任ではないかと思っています。

神戸にはファッショントリック都市のすべての条件が揃っている木口 神戸は非常に有難い町だと思いますね。と言るのは、ファッショントリック都市づくりをまず提唱されたのが、亡くなられた川崎重工業の砂野 仁さんです。そういう重工業の人が、神戸は将来、ファッショントリック都市に育てあげたらどうかとおっしゃった。私は、これは画期的な発言だと思う。それで、神戸は今まで重工業の町だったけれど、町のもつ雰囲気から言えば、これは誰が見てもファッショントリック都市で行ける町並みですね。そこで、行政も商工会議所も経済界も、さらに一般市民もみんながそれに双手を挙げて賛成をした。

この十年間、行政も経済界も一緒になって、ファッショントリック都市づくりのためのいろんな施策を具体的に実行して来ました。市民全体のコンセンサスを得てファッショントリック都市づくりをしているのは、他には例がないと思います。現実に、海があり山があり坂があり、そして緑があり、町そのものがファッショントリック性に富んで、市民もファッショナブルですね。店だけがいいのではなく、消費者の質もかなり高いですね。いろんな意味で、神戸はファッショントリック都市づくりについては、条件が揃っている。それにもしても、この十年で町並みも変わりましたね。港アーチアイランド、北野をはじめ神戸の町全体に、ずいぶんと緑も増えました。具体的にファッショントリック都市らしい様相を呈して来て喜ばしいと思います。

もう一つ心強いのは、どこの都市でもファッショント

いうとアパレル、織維産業のことなんですね。ところが神戸は最初から洋菓子、真珠、ケミカルシューズなど、いろんなものを含めてファッションと言っている。本当に意味でのトータルファッショントですね。今になってみると、神戸はファッショント都市づくりについては、他の都市よりも常に一步前に進んでいて、しかも具体的に物事が運んでいるということに、非常な力強さを感じます。

細川 神戸の特色はアパレルだけがファッショントではないということですね。これは町の広さから言つても、神戸だから出来るという要素もあつたんですね。

田崎 この十年間をみると、経済的にも効果はあつたと思いますね。それと一番のポイントは、ポートビア'81をやつて、これを機会に町が整備されたということですね。

細川 ファッショントタウンについては、単なる商業団地にならないよう気をつけないといけないです。商売するだけの場所ではなくて、来た人がみんな楽しめる場所にしたいですね。

木口 それも今までのような町づくりではなくて、それぞれのビルが個性をもち、ファッショントタウンにふさわしいものにしたいですね。

細川 ただセンター街や元町と同じようなものがポートアーランドでできても、これは経営は成り立たないと思う。センター街や元町とは味の違う一つの分野ができるないと消費者は寄つて来ない。

木口 町の活性化のためにも、問屋街になつてしまつてはダメだということはハッキリしていますね。

細川 われわれのところは、もうビルの建設にかかる盛り込んで、次に出て来る方が、これは行けるということなるように、いい波紋を与えるようになつて行かなといついけないと私は思います。もし倉庫のようなものを建てるなら、引きつづいて出て来る方が、ここではこれしかダメだなということになつて、みんな倉庫になつて行

くという悪い波紋が広がる可能性もあります。

木口 ただ、われわれは何も商店街をつくろうというこではないのです。活性化のための何かがないと箕面の団地になつてしまう。せつかくつくったものが死んでしまって。人を引きつけ、活性化のためにはどんなものが必要なのか、どういう形で伸ばして行けばいいのか、神戸の何か特色あるものをつくり上げて行かないといけない

芹澤 それと「星の顔」も大事でしょうが、二十四時間都市という機能をもたすためにも、夜の賑わい性も必要でしょうね。

木口 聞いてみますと、各ビルにホールをつくったり、いろいろことをみなさん考えておられるようですから、やはりセンターハーとか元町とかとは違った味のあるものが出来ると私は思いますね。

細川 ただ問題は駐車場が絶対的に不足していることです。同じコーヒー一杯を飲むのも、ゆったりとしたところで話をしながら、ゆっくりと楽しむというようになんです。

河本 ここ二、三年を見ていますと、狭い喫茶店はダメなんですね。「フロアーレ百坪」という大きな容れ物が必要です。同じコーヒー一杯を飲むのも、ゆったりとしたところで話をしながら、ゆっくりと楽しむというようになつたということを強く感じましたね。

木口 だから、そういうことを頭において、では、ポートアーランドのファッショントタウンにどういうものを建てるべきかということになりますと、十分にゆったりと楽しめる場所のあるものですね。そうすれば、あそこへ行けばこういう楽しみ方ができるということで、わざわざでも来てくれると思う。そういう町づくりをみんながしないといけない。ゆつたりとエンジョイできる雰囲気づくりが大切になつて来ると思います。

神戸百年の計を立て、都市づくりを進めよう

川上 これから先の話になりますと、まず、神戸百年の計を立てる必要があります。少なくともこの十年の間にファッショントということにとらわれないで、次の百年へ

のスタートを切るべきだと思いますね。

近視眼的にみますと、神戸の今の歩みは継続され、だんだんと仕上げられて行くわけですが、その中で一つは神戸そのものが活力にあふれて、新しいものに取り組み、人間環境都市として革新して行く実験をつづけて行く。

さらに都市間競争、地域間競争、さらに国際間競争のなかに放り出されるという形になって行くでしょうからそうなると神戸は、今ある特色の上に、さらに特色を出して行く必要がありますね。国内はもちろん、世界的に神戸の良さを知つてもらうために何かをする必要があります。

ポートアイランドを見た場合、これは神戸百年の傑作だということを心がけるべきだし、その中のファッショントータウンということでは、三十年後、五十年後にもなお活力にあふれ魅力に富んだ町でないといけない。だから町づくりをして行く上で、三十年後、五十年後にも活力あふれる町のために対応して行くフレキシブルなスペースとか、そういうものをもっておく必要がありますね。たとえば、建物の壁のつけ方についても、あととちょっと手を加えると大きなスペースとして使えるというよううに、建築の上でも三十年後、五十年後を配慮したものが必要だと思う。町の活力を常により新鮮に、より発展させて行くために、フレキシブルなスペースの活用ができる配慮が必要だろうと思いますね。

それと、どこから來てもここから神戸だ、また、神戸から出るときにも、ここまでが神戸だったという何らかの標識、それが花であつてもいいし、モニュメントであつてもいいし、森であつてもいいし、あるいは凱旋門のようなものであつてもいいですが、ここから神戸、ここまで神戸というものがあつてもいいですね。

さらに、それぞれの地域、たとえば北野なら北野、三宮なら三宮という地域がそれぞれの特色をもつ。個性あふれる町の集つた巨大な花園が神戸であるという形になつて行けばいいと思いますね。

**芹澤** ファッションは生活文化ですから、文化的向上という意味から、町の中にもつと芸術が入つて来てもらいたいのではないかと思いますね。たとえば、フランク・ロードには彫刻の道がありますし、文化ホールの付近にも彫刻の道がありますね。ああいうものが、もつともつと町の中にあつてもいいと思いますね。

一方、話は変わりますが、中小企業大学が福崎にありますね。せっかく行政と民間との力でファッショントータウンが盛り上つて来ていますので、神戸にファッショントータウン大学があつてもいいと思いますね。たとえばディスプレー

民の目を楽しませるものになって欲しいし、あるいは、マーチャンダイジングとかバイヤー論などは学問としてもとりあげていいジャンルだと思いますね。ファッショントータウン博士というのが生まれてもいいのじやないかと思います。田崎 私は、これは大学というような大きなものではないのですが、自分でデザインをして、自分で指輪をつくり、自分の指にはめるという教室といいますか、学校のこのようなものをつくりたいと考えています。受講者は多いんじゃないいかと思いますね。

**木口** 確かにセンスのある人が集つて来ると思いますね。今おっしゃったようなものが下地となつて、ファッショントータウン大学へと発展して行くと思いますね。最初から大きなものではなくても、核が出来ればだんだんと大きくなつて行くのが自然ですね。

**田崎** ポートアイランドのファッショントータウンから新しい波を起こしたいですね。

**川上** 神戸のファッショントータウンは、アパレルだけではなく、町そのものであり、地域社会の生活文化を向上させて行くことが、神戸のめざすファッショントータウン都市づくりであるということですね。

**細川** ファッショントータウンの建設を機に、行政・プラスわれわれ民間が頑張って、ファッショントータウン都市づくりを進め行かないといけないと考えています。

**田崎真珠株**

取締役社長 田崎俊作  
神戸市中央区旗塚通 6-3-10  
TEL (078) 231-3321

**オールスタイル株**

取締役社長 川上勉  
神戸市中央区伊藤町121  
TEL (078) 321-2111

**カネボウベルエイシ一株**

取締役社長 稲岡必三  
神戸市中央区三宮町1丁目9-1-807  
センター・プラザ東館 8F  
TEL (078) 392-2101

**ベニヤ**

取締役社長 松谷富士男  
神戸市中央区三宮町1丁目10-1  
TEL (078) 332-3155

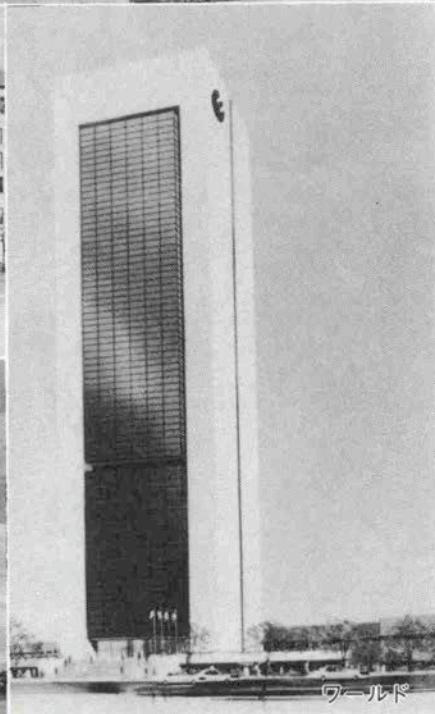
**モロゾフ株**

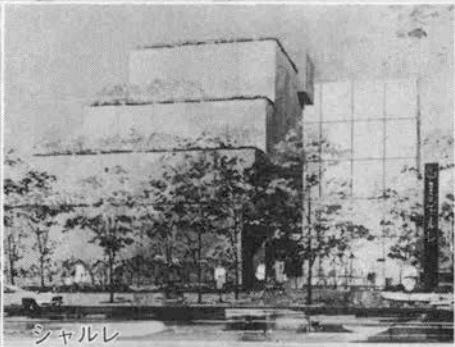
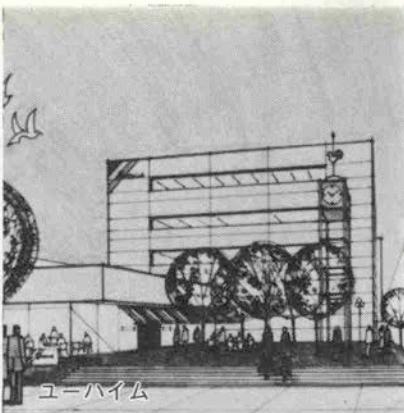
取締役社長 葛野友太郎  
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594



# いま神戸の歴史が動く

□ 神戸港沖三キロ。そこに世界初の海上文化都市ポートアイランドがある。その中核“イ  
ンターナショナルスクエアの一画に、今、ファッショントンタウンの建設が進められている。  
ファッション都市神戸が二十一世紀へと翔ぶための大きいなる構想が着々と進んでいる。





(完成予想図。変更もあります)